

第 1 回共同生活援助事業 地域連携推進会議 会議録

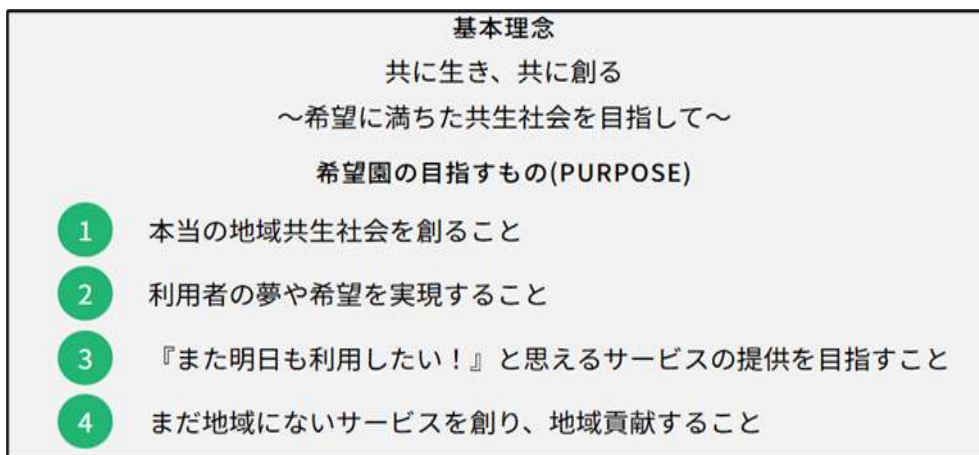
令和 7 年 9 月 28 日(日)・29 日(月)

◆◇ 議題 ◇◆

1) 地域関係者と顔の見える関係作り(自己紹介)

2) 共同生活援助事業(グループホーム)を理解する

【法人基本理念と展開している事業】



- ・障害者支援施設 希望園（施設入所、生活介護、短期入所、日中一時支援）
- ・多機能型事業所 ほっと（就労継続支援 B 型、生活介護、日中一時支援）
- ・相談支援 希望園（指定相談支援事業）
- ・グループホーム あゆみ、いずみ、のぞみ、ふるさと（共同生活援助事業介護サービス包括型）

【グループホーム紹介】

「地域で暮らしたいけど一人で生活するのは不安。」

「介護が必要な面もあるが、施設に入らず地域で暮らしたい。」

- ・18 歳以上でハンディを示す手帳等(療育・身体・精神・難病)があり、障害支援区分の認定を受け、出身市町の許可が得られれば利用できます。
- ・地域の中で少人数のアットホームな生活を介護サービス包括型(当法人職員が介護サービスを提供)でサポートしています。

<食事の提供>

栄養バランスを考えヨシケイを利用。毎日世話人が朝食・夕食の準備をします。

<健康管理・必要に応じた介護>

医療機関と連携しながら、グループホーム担当職員や世話人が日々の体調を確認し必要に応じた介護等を行い、健康管理に努めます。

<日常生活場面における相談・援助>

仕事での悩みごとや、日々の困りごとなど、グループホーム担当職員や世話人が相談に応じます。

※世話人勤務時間 6時30分～8時30分 16時～20時（2～3人交代体制で毎日勤務）

※担当職員勤務時間 8時30分～17時15分（月・水・木） 11時～19時45分（火・金）

※土日祝日は休みだが、必要に応じ緊急対応可能

【日中活動事業所】

◆のぞみホームは女性4名が暮らし、下記の事業所等へ日中通っています。

・希望園 ・一般就労 ・和光園

◆ふるさとホームは男性5名が暮らし、下記の事業所等へ日中通っています。

・希望園 ・希望園 ほっと ・つぐみ福祉会

◆いずみホームは女性6名が暮らし、下記の事業所等へ日中通っています。

・一般就労 ・セルフあすなろ ・希望園 ほっと

◆あゆみホームは女性4名が暮らし、下記の事業所へ日中通っています。

・つぐみ福祉会 ・セルフあすなろ ・希望園 ほっと

【地域との交流】

・休日は市内のスーパーやドラッグストアへ昼食等の買物に出掛け、外出を好まない人はアサヒフードを利用しています。

・市内の行事や祭りに出掛けます。・自転車で病院へ通っています。

・描いた絵を市内の喫茶店に飾ってもらっています。

・公共交通機関を利用し、あつ宝んどへ行きます。

・毎月開催される、さくら会（本人の会）の活動に参加しています。

【防災対策】

- ・災害と感染の各BCP計画のもと、各災害と感染を想定した訓練を実施
避難訓練(地震 火災) 感染拡大防止と対応訓練 年2～3回 実施
(あゆみホームは水害想定避難訓練を年1回実施)

3) 地域課題の共有と課題解決に向けた取り組み(意見交換)

～グループホーム利用者の思い～

- ・新型コロナウイルス感染が5類に分類されたので、区内の社会奉仕活動や楽しいイベントに参加したいです。

～担当職員の思い～

- ・地区の総会に職員が出席して、グループホームの利用者さんが地区の行事に参加しやすいようにしたいです。
- ・夜間は利用者さんだけになるので、緊急時、職員が駆け付けれるまでのあいだ、助けてもらいたいです。

各会議の内容

① グループホームのぞみ・ふるさと

日時

令和7年9月28日(日)

13:00～ 園東棟2階会議室にて紹介と意見交換

13:40～ のぞみ・ふるさと見学

14:00 終了

参加者

利用者代表(2名) 保護者代表(1名)

近隣障害者施設の代表者(むつみ園1名)

地区福祉委員(西里区1名)

市町村福祉課担当者(1名)

希望園 共同生活援助 サービス管理責任者 松田智恵

内容

・利用者

→グループホーム紹介時、レジメに掲載した写真を見ながら利用者にインタビュー形式で答えてもらったことで緊張もほぐれ、話しやすそうだった。お二人とも現在困りごとはなく、ホームでの暮らしを続けたいという意思を明確に示して下さった。

・保護者

→弟は希望園からグループホームへ移り、長期間グループホームを利用できている。ホームの中を見せてもらいよかった。これからも利用を続けたい。

・むつみ園

→利用者の地域活動参加に先立ち、サービス管理責任者が地区の総会に出席しているが、休日・平日・昼夜さまざまに開催されるので、日程調整がむつみ園でも大変である。

一人で難しいときは協力者が必要。

松田⇒協力者を募り、3地区の総会に参加できる仕組みを作りたい。

・西里地区福祉委員

→総会の開催場所がエキサイト広場で地区から離れているので参加世帯が減っていることが課題。

松田⇒希望園(体育棟や会議室)の利用ができるよう管理者に伝える。

→グループホームへも回覧板を回し、情報提供していく。

→災害時、できることは協力したい。

・市町村福祉課担当者

→みなさん、利用に満足されてホームも清掃ができていてよかった。

② グループホームいずみ

日時

令和7年9月29日(月)

10:00～ いずみホーム見学

10:15～ 食堂にて紹介と意見交換

10:50 終了

参加者

利用者代表(1名) 保護者代表(1名)

近隣障害者施設の代表者(紫水の郷1名)

地区福祉委員(篠座区1名)

市町村福祉課担当者(1名)

希望園 共同生活援助 サービス管理責任者 松田智恵

内容

・利用者

→はじめは緊張されていた。グループホーム紹介時、レジュメに掲載した写真を見ながら利用者にインタビュー形式で答えてもらったことで緊張もほぐれにこやかになった。

ホームでの困りごとについては、いつまでホームにいられるか心配されていた。

松田⇒個別で相談にのることを約束した。

・保護者

→娘は明日ホームを引っ越す。ホームごとに特徴があるので、次のホームは暮らしやすい場所であることを願っている。

松田⇒ご本人に『慣れるまで』と言ってつらい思いをさせてしまい申し訳なかった。

・紫水の郷

→避難先について、紫水の郷では 現在 文化会館が避難所になっている。緊急時には近所に助けを求めるように伝えている。あゆみホームはどこに避難するのか。

松田⇒火災、地震等は 近所の希望園職員宅へ、サービス管理責任者が駆け付けるまで身を寄せるよう伝えている。ホームでの生活が困難な場合は本体へ避難する。

・篠座地区福祉委員

→福祉委員も3年目になる。篠座地区の総会は生活改善センターで年度の終わりの日曜日13時30分頃からおこなわれている。新しい世帯が増え、班は14班もある。人は多いがアパート等もあり横のつながりは弱い。6月と9月に茜公園の草取りや生活改善センターの掃除をしているが、参加者名簿もないので何班の誰が来ているかわからない。8月に育成会と青年会がBBQは開催しているが、時代の変化もあって輪が広がらず溶け込みにくいことが課題。

松田⇒総会や社会奉仕に参加させてもらいたい。回覧板や地区のお便りをホームにもいただきたい。

・市町村福祉課担当者

→ホームも広くてきれい。地域の一員として利用者さんも協力できると良いと思う。

③ グループホームあゆみ

日時

令和 7 年 9 月 29 日(月)

14:00～ あゆみホーム見学

14:15～ 食堂にて紹介と意見交換

15:00 終了

参加者

利用者代表(1名)利用者後見人代理(1名)

近隣障害者施設代表者(セルフあすなろ 1名)

地区福祉員(春日 2 丁目東区 1名)

市町村福祉課担当者(1名)

希望園 共同生活援助 サービス管理責任者 松田智恵

内容

・利用者

→言葉を発することはなかったが、部屋の見学をお願いすると明るい表情で案内してくださった。グループホーム紹介時もレジュメに掲載した写真を笑顔で指さしていた。

・後見人代理

→施設入所の方の後見人として契約していることが多く、グループホーム利用の方は少ないので、ご本人の生活ぶりが見られてよかった。現在、福井市在住でグループホームあゆみの地域的特徴や課題等は分からないが、後見人として何かできることがあれば協力したいので相談してもらいたい。

・セルフあすなろ

→地域課題と言っているのか、セルフあすなろへ徒歩通勤する利用者や集団登校する道路は車のスピードも速く、朝夕は車の通行量も多い。歩道の確保はされているが、反対側はガードレール越しに水量多く流れが速い川があるので事故が心配。

松田⇒施設利用者や他グループホーム利用者も行き交う道路なので気になっている。運転者として気を付けたい。

・春日 2 丁目東区福祉委員

→民生委員も長年おこない、福祉委員も依頼され続けている。春日 2 丁目東区は範囲が広く、毎年年度末に役員会を開催しているが、区民が集まっての総会は 2 年に 1 回、区長が変わる時、秋葉集会場でおこなっている。回覧板は月 1 回出している。社会奉仕は 5 月に木瓜

川清掃と自宅周辺の清掃をしている。最近では 70 歳代の二人暮らしが 20 世帯ほどになって高齢化が進んでいる。あゆみホームは長い間男性が暮らしていて、挨拶を交わす仲だったが、昨年あたりから姿が見えなくなりどうしたのかと思っていた。

松田⇒あゆみホームのメンバー(男性 4 名)は長年、近隣のみなさんに見守られ、穏やかに暮らしていたが、同地区にあった なごみホームの閉所が決定。令和 6 年 2 月に他グループホームへ移ってもらい、なごみホームにいた女性メンバーにあゆみホームへ入ってもらった。現在、女性 4 名が暮らしている。今後、総会(職員)や社会奉仕(職員と利用者)に参加したいので、回覧板やお便りをいただきたい。

・市町村福祉課担当者

→3 回の会議に参加して、職員や世話人が不在時に災害等が起きた場合、利用者のプライバシーを守りながら地域住民が緊急時の初期対応をしないといけないことと加齢や障がいの重度化で浴室や階段が使用できなくなるとホームでの生活が難しくなることがわかった。今後、ホームでの生活が困難になった場合、利用者の介護サービスへの移行がスムーズにできて安心して暮らせるシステムを市としても検討したい。

松田⇒『安心して暮らせる』という期待がふくらむ回答をいただき心強い。

地域において閉鎖的になりがちなグループホームだが、今回の会議で外部の目が入り、お互いを知る試みは得るものが多かった。写真入りレジュメを使ったインタビュー式の問いかけは利用者が発言しやすく会議の場が和んだ。参加者の意見を聞き来年度の会議の内容を検討したいと思う。